第 183 回践勉強会　実施レポート

共催
日本化薬株式会社
大田区薬剤師会

開催日　令和 8 年 10 月 29 日

参加者42名

『 非小細胞肺がんの治療について
～内服薬を中心とした薬物療法～（仮）』

演者：東京品川病院　呼吸器病センター　センター長　呼吸器内科
部長　太田　真一郎先生

【質問】
ROS1-TKI の 4 つの治療薬について、使用する際の優先順位はあるのか？
CNS 活性や有害事象プロファイルなど、患者背景によって選択は変わると思われるが見解を伺いたい。

【回答】
現時点での私見ではあるがデータを総合的に評価した場合、奏効率や有害事象プロファイルなどを踏まえるとイブトロジーが第一選択の候補になると考える。
一方でその他の薬剤にもそれぞれ特徴や利点があり、当施設でも使用経験がある。
今後さらにエビデンスが蓄積されることで、患者背景や病態、合併症などを十分に考慮しながら個々の症例に応じた適切な薬剤選択を行っていくべきと考える。

【質問】
間質性肺炎（ILD）の患者数が近年増加しているように感じるがその背景についてどのように考えるか？

【回答】
明確な理由を一概に示すことは難しいが従来から間質性肺炎患者は一定数存在していたと考えられる。

以前は有効な治療薬が限られていたことから、一般診療医から専門施設へ紹介されていない症例も少なくなかった可能性がある。しかし近年は抗線維化薬などの治療選択肢が増え、早期診断・早期治療の重要性が広く認識されるようになった。
その結果、専門医への紹介や精査が進み、従来潜在的に存在していた患者が顕在化したことで患者数が増加しているように見えている可能性がある。